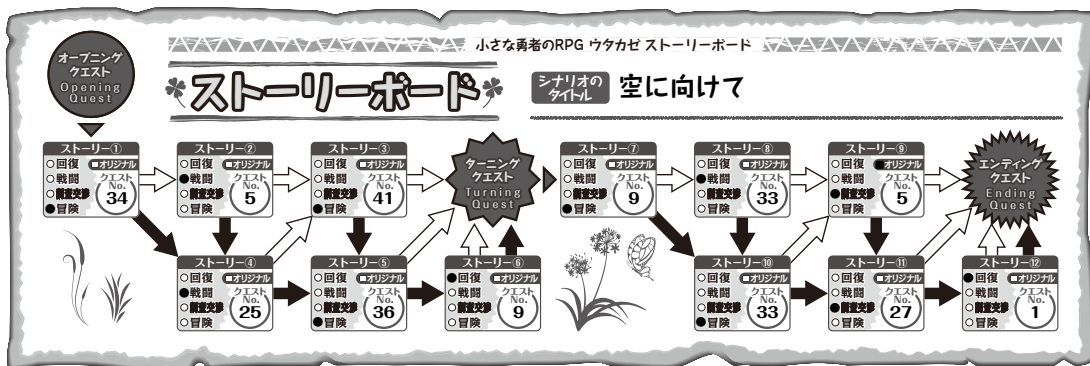


# シナリオ：空に向けて



シナリオ作成：村上養次郎

シナリオレベル：4

予定セッション時間：1時間30分

GMレス：不可

## ※シナリオ開始前の設定について

このシナリオは、ウタカゼの師に使命を受けて、歌風の龍樹を出発するといった通常のシナリオとは異なり、PCが旅の途中に、村長に使命を依頼されることから始まります。

その際、PCは「乗りウサギに乗って旅をしている」設定です（騎乗動物シート・ウサギを作成すること）。

また、PCの旅はGMが自由に設定しても構いません。前回の冒険の続きでもよいですし、PCたちがそれぞれの旅の途中で村に立ち寄ったという設定でもよいでしょう。

## ■プロローグ

ここはかざあな山。時刻は夕方。空が穏やかなオレンジ色に染まってきた頃のことでした。

山の麓にあるヨツバの村で暮らしているネズミ族の狩人が、獲物となる虫の狩りをしていました。

丸々と太ったコオロギを捕まえ、意気揚々としていると、どこかから笛を鳴らすような気味の悪い鳴き声が聞こえてきます。

その鳴き声は、山を寂しげな空気にさせてしまいます。いざやがだつた動物や虫たちの声が、不気味なほど静かになりました。

突然静まりがえった山に、狩人がおろおろとしていると、またその気味の悪い鳴き声が山に響きます。

その刹那、強雨が狩人を襲いました。続けて光と轟音。煌々と放たれた光と、鼻をつく焦げ臭きに狩

人はようやく何が起こったのかを理解しました。雷がどこかに落ちたようです。

慌てて狩人が山を下りようとする、雨音に混じって、また気持の悪い鳴き声が聞こえてきました。同時に、地を駆ける獣の足音も聞こえてきます。

どうやらその音は山の麓から、こちらに近づいてきているようでした。

それから、狩人の目の前に現れたのは、地を滑る獣のような姿に。

狩人には、それが四肢を使って、地面を駆けてきているようにしか見えていません。

それが、奇妙な鳴き声を上げる度に、また雷がどこかに落ち、雨は激しさを増していきます。

なにかは、一目散に山頂に向かって、狩人を横切りました。

狩人が振り返ると、そのなにかはかざあな山の頂を覆う黒々とした雲のなかにへと溶けていきました。

## ■オープニングクエスト

旅の途中、ヨツバの村にやってきたウタカゼ。

ヨツバの村は、かざあな山の麓にある村。ウタカゼがかざあな山を通ろうとした時、突然の雷雨に見舞われてしまい、たまたまこの村にやってきたのです。

村に着くと、夜にも関わらず、村人たちから歓迎され、村長の家にある一つの部屋に案内されました。

外では、雨が窓を打ち鳴らしています。何度目の雷が落ちてきて、一瞬だけではありませんでしたが、夜を照らしました。

そんな夜、腰の曲がったネズミ族の老人が部屋に入ってきます。

「ウタカゼ様、私はこのヨツバの村の村長であるク

クロバと申しますチュ」

クロバと名乗る村長が、恭しく頭を下げてきました。

PCが雨に関連したことを述べたタイミングで、GMはPCの質問にあわせて、以下の情報を伝えてください。

### ・クロバの知っている情報#

「連日続いている雷雨のせいで、我々は大変な目にあっているのでチュ」

「雨は段々降る頻度が増えていて、この調子だといつまで雨が続きかわからないでチュ」

「村の狩人が、狩りのためにかざあな山に出かけろが、一向に帰ってこないチュ」

「探しにでかけろが、この雨のせいで、村の外に出ることはできないチュ」

「農作業も、豪雨のせいで畑が荒れてしまい、作業がはかばかしないチュ」

「外出も困難であり、雷のせいで、泣く子どももいるチュ」

「この雷雨は、かざあな山付近でしか、降っていないらしいでチュ」

「この奇妙な天候と同時に、奇妙な生き物が山でたびたび目撃されているチュ」

「その奇妙な生き物はこの雷雨に関係があるのかもしれないのでチュ」

「この雷雨がこれ以上続くとすれば、歌風の龍樹にツタエバツタを送ることも考えていたのでチュ」

一通りの質問が終わったタイミングで、GMは以下の文章を読み上げてください。

「どうかウタカゼ様。不躰な願いをお許しくぞまい。村の狩人を見つけて、この雷雨の原因を調査してくれないでチュか？」

クロバがそうウタカゼに頼んできます。

PCが依頼を了承したタイミングでGMは以下の文章を読み上げてください。

「ありがとうございませでチュ。ウタカゼ様」

クロバは声を震わせ、何度も何度もおじぎをして感謝の言葉を繰り返しました。

PCがかざあな山に向かうと言ったタイミングで

GMは以下の文章を読み上げてください。

ウタカゼが村長の家から出ると、相変わらず雨が降り注いでいます。

夜空も雲に隠れてしまい、月はおろが、星ひとつ見ることはできませんでした。

### ▶ストーリー①に進む。

### ■ターニングクエスト

かざあな山にたどり着いたウタカゼ。

すると、かざあな山の方が、こちらに迫ってくる荒い息遣いと足音が聞こえてきます。

どうやら、ネズミ族の男がこちらに向かってきているようです。

「おお、もしやウタカゼ様ではありませんでチュか!?!」

そのネズミ族はウタカゼの姿を認めると、そう叫び出しました。

「俺は麓にある村の狩人エルドと言いますでチュ」

GMはPCの質問にあわせて、以下の情報を伝えてください。

### ・エルドの知っている情報

「俺はこの山で狩りをしていたチュ」

「そうすると、笛のような気持ち悪い鳴き声が聞こえんぞチュ」

「その時に、雨が降り始め、雷も落ちてきたぞチュ」

「危ないから、下山しようとしたが、その時に奇妙な生き物を見つけんぞチュ」

「その生き物は山頂に向かったチュ」

「気持ちの悪い鳴き声は、あの生き物の鳴き声ぞチュ」

「おそらくあの生き物がここ最近の雷雨の原因なのだろうチュ」

「そのまま急いで山を下りようとしたのだが、雷雨のせいで思うように下山できず、こうして時間がかかってしまったチュ」

一通りの質問が終わったタイミングで、GMは以下の文章を読み上げてください。

「俺には、あの恐ろしい生き物がなんなのかわからないイチュ……」

エルドは、その生き物と遭遇したことを思い出しているのが、ブルブルと身体が震え始めます。

PCはエルドの話から、奇妙な生き物の正体を調べることができます。

**行為判定(全員)：【知恵】+〈学問〉(難2)**

**1人成功**：その生き物はラビラールと呼ばれる悪意の精霊だということがわかった。

**全員失敗**：なにもわからない。

この判定に成功した場合は、「ラビラール」(→RB:P139)の説明を読み上げてください。

説明を読み終えた、または判定に失敗した場合は、以下の文章を読み上げてください。

「ご武運をお祈りしますチュ。それでは俺は失礼しますチュ」

そうして、エルドは村のほうに向かっ、走り去っていきました。

▶**ストーリー⑦に進む。**

### ■エンディングクエスト

かまあな山の頂上にはおびり着いたウタカゼ。

頂上は平坦としていて、おくまんの小岩がぼつぼつと転がっているだけでした。

しかし、その頂上には、この雷雨の原因となつたラビラールの姿は見えませぬ。

PCはラビラールを探することができます。

**行為判定(全員)：【知恵】+〈感覚〉(難2)**

**1人成功**：ラビラールを見つけた。以下の文章を読み上げてください。

ラビラールは小岩に乗って、ウタカゼをじっと静かに見下ろしていました。

やがて、笛のような奇妙な鳴き声を上げると、雷がひこかに落ちてきました。

雨も勢いが強く増します。

ラビラールが襲いかかってきました。

**全員失敗**：ラビラールを見つけられない。以下の文章を読み上げてください。

奇妙な鳴き声が聞こえてきたのと、同時にウタカゼの近くには雷が落ちてきます。

そうすると、ウタカゼの目の前にはラビラールが、

ひこかりが現れました。

そうして、また奇妙な鳴き声を上げると、恐ろしい勢いで、襲いかかってきました。

### ●ラビラールとの戦闘

「ラビラール」(→RB:P139)1体との戦闘を開始してください。

### ●エンディング

ラビラールは悲鳴のように、小さく鳴き声を上げると倒れてしまいました。

そうして、その身体は徐々に黒い煙になって、空へと昇っていきます。

黒い煙は空に溶けていき、完全に消え去ると、雨が止み、雲は割れて、満天の星空が広がりました。

ウタカゼの上で、星たちが輝いています。

ふと、東から昇りつつある朝日が見えてきました。

想いがかたちをなす大地に、新しい朝がやってくるようです。

〈おしまい〉